

■ 令和6年度 第8回 秋葉区自治協議会

日時：令和6年12月24日（火）午後1時30分

会場：秋葉区役所6階 601・602会議室

1 開会

（中島会長）

のっけから私ごとなんですけれども、今日神奈川で暮らす次女が、娘が帰ってきました、今日の夜、クリスマスイブだというんで、ルレクチェのパイを焼いてくれるんです。そのパイのことで今私頭がいっぱいございまして、今日議事の進行を失「パイ」しないように集中してまいりたいと思います。ねづっちです。違いますね。

それでは、令和6年度第8回秋葉区自治協議会、これより開催いたします。

それでは、開会の挨拶を第3部会の古川委員からお願いいたします。

（古川委員）

この場で失礼いたします。皆さん、こんにちは。3部会の古川綾子と申します。本日、今年最後の自治協議会という節目の日に、しかもちょっといつもと形式が違うところで、少しちょっと緊張しておりますけれども、少しお時間頂戴できればと思います。

私は、昨年4月から公募委員として今回活動をさせていただいております、もともと新潟や新津が大好きで、それらの魅力を発信する活動を個人で行っておりました。子育てをする中で、自分も地域のために何か役立てないだろうかということで思い立ちまして、この自治協に応募したのがきっかけでございます。本日は、現在私がすごく力を込めて取り組んでおります、こあいミラビの活動につきまして少しご紹介をさせていただきたいと思います。

こあいミラビは、未来ビジョンプロジェクトの小合地区版としてスタートいたしました。こあいミラビ、名前の由来なんですけれども、小合の未来ビジョンを略しまして、こあいミラビとなりました。今年の8月、地域住民向けにメンバー募集を行われまして、子育て中のパパ、ママさんだったり、あとは長年小合地区を支えてくださっている地域の方々など、幅広い世代の計7名のメンバーが集まりました。これまでの具体的な取組といたしましては、11月に開催されました小合地区芸術祭に合わせて、ミラビカフェという形で小さなカフェを試験的にオープンいたしました。その際は、約60名もの方々にご利用いただきまして、世代を超えた交流が生まれました。そして、今現在はこあいキッズステーションということで、子供たちの居場所プロジェクトを準備中の団体でございま

す。まずは、明日25日、そして27日の2日間、小合のコミュニティセンターで学習スペースや遊び場を提供し、子供たちが安心して過ごせる場所をつくろうということで動いております。

とはいっても、正直私たちの挑戦はまだまだ課題だらけだなと感じています。活動を進める中で感じているのは、地域の皆さんの温かい協力を得られる一方で、行政の壁に直面することがあります。例えばイルミネーションを設置したいなとアイデアが出ましても、関係各所に許可を取りなさい、あれに、あそこに聞け、ここに聞けなど言われたりとか、一つ一つがなかなかスムーズに進みません。子供たちの居場所づくりにつきましても、先日秋葉区役所に相談した際に、相談できる部署はここにはありません、古町のどこどこに相談してくださいと言われてしまいまして、地域で解決したい課題であっても、行政を挟むことでうまく連携が進まないというジレンマを感じておるところでございます。また、コミ協の方とも考え方のずれがあったりと、正直思うようにならないストレスも多々あるというのが現状です。

とはいえ、地域の子供たちのためには、手がすごく震えています、私。ここで諦めることなく、世代を超えて地域の皆さんが小合に住んでよかったなと思えるような居場所づくりに力を入れて、小合地区に明るい風を吹き込んでいきたいと考えているところです。

最後になりますが、こあいミラビの取組を通じて、少しでも秋葉区全体、地域全体のつながりだったり、あとは可能性に広がることを願っております。この活動の様子につきましては、こあいミラビのブログ、ホームページ作成いたしました。そちらでご紹介しておりますので、ぜひお時間あるときにこあいミラビで検索してみてください。また、こちらに大勢いらっしゃる見識のある皆様方のお知恵、お力をぜひお貸しいただきたいと思っています。何かお気づきの点だったり、ご助言がございましたら、ぜひ古川にお聞かせいただきたいと思います。これからも秋葉区の一員として皆様と共に歩んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

貴重なお時間ありがとうございました。

(中島会長)

古川委員、ありがとうございました。まさにこどもまんなかの秋葉区づくりにマッチしたプロジェクトかと思います。ぜひ子供たちのために、成功に導いていきましょう。ありがとうございます。

2 報告

(1) 令和7年度秋葉区役所企画事業について(回答)

(中島会長)

それでは続いて、次第に基づきまして進めさせていただきます。

次第の2、報告の1となります。「令和7年度秋葉区役所企画事業について(回答)」です。私より説明をいたします。

こちら、先月の自治協議会の意見聴取を踏まえまして、私のほうで資料1にお示ししたとおり回答書を提出いたしましたので、そのまま読み上げます。「令和6年11月19日付にて意見聴取のありました表記のことについて、内容に異議はなく、今後も区民の声を積極的に拾い上げ、ますます充実した区政運営に努めていただきたくお願いをいたします」、このようにまとめさせていただきました。皆様から区役所企画事業について特に異論はありませんでしたので、このような文面で回答したところでございます。

こちら、よろしいでしょうか。何か皆さんからまた意見とかございましたら、どうでしょうか。いいでしょうか。

特にしばらくにしてございませぬので、これで1、「令和7年度秋葉区役所企画事業について(回答)」を終わります。

(2) 令和6年度第2回区自治協議会会長会議について

(中島会長)

それで、続きまして2に移ります。「令和6年度第2回区自治協議会会長会議について」、こちら私から説明をさせていただきます。

お手元の資料の2を御覧になってください。11月の13日に、市役所本館にて第2回目の自治協議会会長会議が開かれました。議題としては、本当にこの資料に書かれているとおりでございます。大きく3つあって、1つ目が第9期振り返り資料の巻末資料案についてということで、こちらは基本的に事務手続の確認ということでございます。

2つ目の議題が第10期の新任委員研修会についてでございます。こちら書かれているとおりでございまして、開催案、実施方法ですね、については、全区統一の研修内容とすることはこれまでと同様、維持しつつも、日程調整、移動の負担を軽減した形式、動画講義、区オリエンテーション、同日に行う、これは各区開催ということで決定になりました。また、所属の自治協の役割や活動の方向性を明確に認識できるということを念頭に置きつつ、進めてまいろうかと思います。

次ですが、3つ目ですが、市長と区自治協議会委員の懇談会についてでございます。これは、市長と区議会議員の懇談会なんですけれども、市長、皆さんご存じのとおり体調が思わしくないところがあって、なかなか公務に出られないようなこともございました。

そうしたことを考慮いたしまして、特に市長に、出ていただければ一番いいんでしょうけれども、副市長による説明、また意見交換でも十分ではないか、また副市長に限らず、担当部長との意見交換でも構わないではないか、そんなような意見が出まして、その方向で来年度調整をしていくといったようなことが決まりました。

そして、その他のところで1つございます。北区の会長から区自治協議会の存在意義の確認と、さらなる発展に向けて検討を行う意見交換会を設置してはどうかといったようなことで、課題提起がありました。それで、実はもう来年20年になるのかな。自治協議会が開設されて20年になる節目の年を迎えます。そうしたことで、この延長で合意に至ったことなんですけれども、令和7年3月18日に次回の会長会議が開かれます。懇親会が催されます。そのときに、各区の副会長、そして各部会長もぜひ参加して意見交換、情報交換してはどうだろうかという話になりまして、8区会長だけではなく、副会長、部会長も出席していただく方向で開催することになりました。日時が令和7年3月18日の火曜日18時からでございます。会場は、アートホテル新潟駅前4階、湯沢というお部屋になります。会費は7,000円となっております。秋葉区自治協議会からもぜひ奮ってのご参加をお願いしたいと思います。これ詳細については、改めて事務局のほうからご案内させていただきますので、どうぞよろしくお願いをいたします。これが議題の2つ目です。

こちらについてご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

しばらくにしてございませんで、これで「令和6年度第2回区自治協議会会長会議について」を終わります。

（３）区自治協議会提案事業の事業評価について

（中島会長）

それでは続きまして、3です。「区自治協議会提案事業の事業評価について」、こちらを高橋副区長よりご説明をお願いいたします。

（副区長）

お疲れさまです。資料の3を御覧いただきたいと思います。

区自治協議会提案事業の事業評価についてです。この事業評価について市民協働課より依頼がありましたので、ご対応をお願いするものです。そのページの裏面といいますか、次ページにつきましては、その市民協働課からの依頼文であります。

区自治協議会提案事業については、事業の企画、実施、評価及び改善の各過程において、関係課と密接に連携しながら主体的に取り組むということになっておりまして、区

自治協議会自らが事業評価を行う必要があります。この事業評価は、改善点などを来年度以降の提案事業に生かすことを目的としています。3月の自治協議会において事業評価を報告していただき、その後、区のホームページで事業評価書を公開する予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

(中島会長)

高橋副区長、ありがとうございます。

毎年こちらは作成しているものでございます。たしか私の記憶だと、2月の末日が秋葉区の事務局への提出期限になっていたかなと思います。今年一年を振り返りまして、事業の成果であったり、また実績であったり、また課題、今後の見通し、展望について、携わった委員の皆様から所見を出してもらって全体の総括を行うといったことでございますので、事業に携わられた委員の方におかれましては、評価の取りまとめにご協力をいただきますようお願いをいたします。

こちらにつきまして何かご質問、ご意見等ございましたらお願いをいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

しばらくにしてございませので、これで3、「区自治協議会提案事業の事業評価について」を終わります。

3 その他

(中島会長)

それでは次に、次第の3、その他に移ります。

まず、各部会から活動報告をお願いいたします。第1部会、第2部会、第3部会、広報部会、ひな・お宝めぐり部会の順番で参ります。時間の都合で、ご質問は全ての部会が終わってから、まとめてさせていただきます。

それでは、第1部会、加納部会長、お願いいたします。

(加納委員)

座って説明させていただきます。

今年度6件の応募がございまして、3件採択されました。全て11月もしくは12月の初めに完了しておりまして、あとは3月の発表を待つのみというふうな状況になっておりますことをご報告させていただきます。応募いただいた皆さんには非常にご苦勞されたかと思いますが、ありがたく思っております。

以上です。

(中島会長)

ありがとうございました。

それでは、第2部会、青木部会長、お願いいたします。

(青木委員)

第2部会、青木でございます。第2部会から会議の関係2点連絡いたします。

まず、1点目、当初は公共交通の検討会、これを12月の17日火曜日やる予定でございましたけども、本庁の都市政策部都市交通政策課の方が所用で駄目ということで延期になりまして、1月の下旬にやる予定でございます。

続きまして、会議の2点目、これは5年に1回行われる会議でございまして、令和6年度の秋葉地域公共交通検討会議、これにつきましては国土交通省以下10の機関、団体が15名の参加で行われる会議でございまして、これは令和7年度から10年度、秋葉区生活交通の改善プラン、これについて検討する会議でございまして、1月の15日、この場所で行う予定でございます。

第2部会からの連絡は、以上2点でございます。

(中島会長)

ありがとうございました。

それでは続きまして、第3部会、佐々木委員、お願いいたします。

(佐々木委員)

第3部会の報告です。

いよいよもち麦の物語が完成いたしまして、秋葉っ子ふゆまつりで、このたびチラシを皆さんの机上に配付させていただきましたが、このように秋葉区自治協議会もち麦フェスタ同時開催ということで、キャラクターのピッピがコメントを出しておりますが、ここで紙芝居を制作させていただきました。今日、実は後ろのほうに、すみません、加藤さん、申し訳ありません。実はA Iが考えまして、ちょっと見づらいんですが、ありがとうございます。このようにA Iがキャラクターを考えてくださいます、そして物語もA Iが考えたんですけれども、それにちょっと手を加えさせていただいて、大型の紙芝居として当日は演じさせていただきます。そのほかにも、ちょっと会場が広いものですから、大きなスクリーンで演示をさせていただきたいなというふうに思っています。そして、アフレコのほうは第3部会の皆さんで担当したいと思っております。自治会の皆様や地域総務課の加藤さん、そして山田さんにも大変この政策に関しましては協力をいただきました。本当にありがとうございます。

そして、本日配付の当日の裏のほうには、ありがとうございました。プログラム等も入

っているんですけれども、当日は11時25分からこのもち麦のアピールのお時間が1時間ございまして、その中で、自治協議会の皆様にもぜひご参加いただきまして、ダンスのほうを踊っていただけましたらというふうにご協力をお願いしたいところです。本日は、本会議終了後、自治協の皆様と一緒にダンスの練習を行いまして、練習の様子をタミさんが動画で撮影してございまして、インスタ等に掲載予定です。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

このもち麦の先ほどのキャラクターのちょっと缶バッジと、そしてもち麦のPRのいろんな書類を入れまして、クリアファイルに入れて、会場の皆さんに300部、もち麦とセットでプレゼントということにしておりますので、どうぞご家族そろって、もちろん皆様は演技手として出ていただきまして、ご家族の皆さんは参加者としておいでいただきましたらうれしいです。1月26日、フェスタ当日はぜひ、本日出れるよというふうにおっしゃる方は佐々木までぜひ連絡、欠席の方だけ連絡をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

また、すみません。私ごとなんですけども、机上のほうにふゆまつのチラシとポスターも配付をさせていただきました。コミ協やご自分のいろんなところに貼っていただけたらと思うんですが、足りないという方は、ちょっと持ってまいりましたので、ぜひお声がけくださるようお願いいたします。東村さんもアナウンサーとして一緒に参加してくださっております。

そして、皆さんにご協力をいただきました子供の居場所のアンケートについてなんですが、3部会として皆さんのほうにメールで送らせていただきました。アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。いただいたご意見を基に結果をまとめまして、今後皆様に結果報告としてお返しいたします。秋葉区の子供たちにとって、さらによりよい居場所を育む参考にしていただけましたらと思っております。

3部会としては、これから大きなイベントを抱えておりますので、これからまた詳細を詰めまして、みんなでまた頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
(中島会長)

佐々木部会長、ありがとうございます。1月26日、にいがた秋葉っ子ふゆまつり開催されます。秋葉区自治協議会も大いに盛り上げてまいりましょう。今日この後、本会議の後にもち麦ダンスと動画撮影がありますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。ありがとうございました。

それでは続きまして、広報部会です。今日、部会長の森田さん、そして副部会長の山崎さんともにお休みと、欠席ということですので、これどうしたらいいんですか。事務局、

やってもらえるの。

()

今井さんが。

(中島会長)

今井さん。すみません、じゃお願いいたします。

(今井委員)

広報部の報告いたします。

広報部副部会長の今井といいます。本日、部会長は体調不良でお休みのため、私が代わってご説明いたします。よろしくお願いいたします。

広報部会では、12月に委員の皆様にご集まいただきまして、年明け以降の動きについて打合せを行いました。まず、ラジオ版の「あきはくはつものがたり」についてですが、1月の放送テーマと出演者について次のとおり決まりましたので、ご報告いたします。これまでに引き続き、委員の皆様からご出演のご協力をお願いいたします。1月は、ひな・お宝めぐりの事前PRということで、中央コミ協の小山委員と荻川コミ協の加納委員にご参加をお願いしております。よろしくお願いいたします。収録日については、後日事務局のほうからご連絡があると思いますので、日程調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

続いて、自治協議会かわら版の36号についてですが、こちらについては3月16日の発行に向けて、かわら版36号のレイアウト案について話し合いを行いました。追ってかわら版ができると思いますので、よろしくお願いいたします。

最後に、自治協PRの20秒のCMについてなんですけども、エフエム新津で行っています。今後、2つの内容でFM放送でPRしていきたいと思っています。委員の皆様からこれも出演にご協力いただかなければならないんですけども、よろしくお願いいたしますと思います。1つ目のテーマがもち麦のPRについて、山崎委員と古川委員にご出演をお願いできればと思っています。また後日説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。2つ目のテーマがひな・お宝めぐりです。これについては村上委員、板井委員より出演をお願いできればと思っていますので、よろしくお願いいたします。

以上、年明け以降も引き続きよろしくお願いいたしますと思います。

以上でご報告終わります。

(中島会長)

今井委員、ありがとうございました。

それでは続きまして、ひな・お宝めぐり部会です。大貫委員、お願いいたします。

(大貫委員)

座ったままで報告させていただきます。

今日は、とっても皆さんにいいお知らせがありまして、事務局から出来たてほやほやの2種類のチラシが手元に届きました。これから皆さんのほうに、皆さんのほうとか、今年はチラシを作らないということでやっていますので、各コミュニティ協議会のほうでここにオリジナリティーを入れて、手を加えて、データのほうを差し上げますので、作っていただきたいということでお願いしてあります。

それと、交流センターのほうの飾りつけに青年会議所の青年、若者が2人、手伝わせてもらいたいということで協力することになっております。その若者2人は、にいつまつりももっと大きなイベントにしていきたいから、そのときもお願いします、協力をお願いしたいということと、あきはなび、これもなかなか人が集まらないんで、皆さんからいろいろ宣伝してもらって協力してもらいたいということでお話がありました。こんなふうにつながっていくのは、すごいことだなと思います。

それであと、この間、昨日でしたか、金津のコミュニティ協議会から、1月に入ったらつるし飾りの折り方をちょっとまた一緒にやってほしいということで、うちのだんだん・嶋岡のプラチナネットワークのほうに依頼がありまして、1月の16日にまた伺ってお手伝いさせてもらうことになっています。山の手のコミュニティ協議会のほうもお手伝いさせていただきます。こんなふうに輪が広がっているのがすごくうれしくてうれしくて、今日報告させていただきます。

それと、皆さんの机上に配付させていただきましたサンタさんなんですが、これは多分青木さんでも簡単に折れると思います。後でゆっくり教えますけど、それを、サンタさんを1つてっぺんにして、2つ、3つ、4つって重ねていくと、大きなツリーができるんです。家族で、今年は間に合わないかもしれないですけど、来年のクリスマスにご家庭でタペストリーを作って、飾って、クリスマスを楽しんでください。

そんなことをお話ししながら、ひな・お宝めぐりの報告とさせていただきます。

以上です。

(中島会長)

ありがとうございました。

各部会からご報告がございました。こちらにつきましてご質問、またご意見等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

しばらくにしてございませんので、では次に移ります。

それでは、本日、この秋葉区自治協議会前会長の金子先生にお越しいただいております。

す。いいですか、そのまま。

じゃ、渡邊委員、お願いします。

(渡邊委員)

すみません、新津高校の総合的な探究の時間の全体発表会についてお知らせをさせていただきます。

2月の4日火曜日の午後12時受付で、12時半から発表会があります。昨年度は、自治協の研修会ということもあったので、体育館で行って皆さん参加ということでしたけれども、今年はそうではなくて、1、2年合同ではありますが、各教室での開催になりますので、皆様任意でご参加をということです。申込みの締切りが1月の23日木曜日の夕方5時までということで、グーグルフォームでの申込みになるそうです。後ほど何らかの形で皆様のお手元に資料をお届けできたらと思っております。

以上です。

(中島会長)

ありがとうございます。2月の4日12時半スタート、新津高校の総合的探求の時間の発表会でしょうか。グーグルフォームでの申込みになっております。よろしくお願いいたします。

ほかに連絡事項等ございましたら。よろしいですか。

それでは、金子先生からコミュニティ未来ビジョンのフォローアップ調査についてのご報告をいただきたいと思います。ここで席のレイアウトをちょっと移動しましょうか。

(金子前会長)

どうも皆さん、こんにちは。矢代田在住、大正大学地域創生学科の金子と申します。

本当に皆様に日頃お世話になりまして、特に今年7月から8月にかけては、8月から9月にかけてですかね。7月から9月にかけてですね。すみません、記憶がもう怪しくなっていて。各コミ協の事務局のほうにお邪魔をさせていただきまして、未来ビジョンの策定から1年ぐらい大体たったというところで、その後の様子はいかがですかという話をお聞きさせていただきました。本当に私、それ全くのやぶ蛇で、別に誰からやれと言われたわけでもないんですけれども、何か本当にこれだけのことを秋葉区のコミュニティ協議会はやったんだなということにすごく意義を感じていまして、それが果たして何を生み出したのかとか、あるいは課題があるとしたらどういうところにあったのかとか、あるいはこの先、できたアクションプランの実現のためにどういったところに課題があるのかって、そういうところを明らかにすることが何か言い出しっぺである私の責任なんじゃないかな、そういう思いが降りてきまして、もう皆さんの貴重なお時間を頂

戴しながら、でも本当に有意義な情報交換をさせていただけたなというふうに思っております。その結果を中心に今日皆様にご報告を差し上げたいというふうに思い、20分ぐらいの報告になろうかと思えますけれども、ぜひこの自治協議会と秋葉区役所と、あとはパッチワーク A K I H A さんにも事務局として関わっていただいたりとか、本当に様々な人たちがコラボレーションして成し遂げた一つの成果であり、恐らくこれが新潟市全市にとっての大きなインパクトをこれから生み出すということになるんじゃないかという予感と、あともうそれだけに限らず、本当に日本を救うような、そんな手法にもなり得るんじゃないのかなと思って、そのぐらいの意気込みで今日のご報告させていただきたいというふうに思っております。

一応報告のタイトルは、地域コミュニティにおけるまちづくり計画策定のプロセスと効果というちょっと若干堅めの題名になっているんですけど、これ実を言うと、11月に日本社会学会という大きな学会がありまして、そこでこの成果を報告させていただいたんです。本当にいろんな先生方から高い関心を寄せていただきました。報告終わった後の休憩時間とかでも、たくさんの方がいらして名刺交換させていただいたりとか、一体どうすればこれができるんだみたいなことを熱心に聞いていかれる行政の関係の方もいたりとかして、本当に手応えを感じているところです。ということで、ちょっとこんな堅めのタイトルになっていますけれども、要は秋葉区で各地区で行いましたコミュニティ未来ビジョンの策定の効果を検証した結果というお話でございます。

ちょっと時代を遡ってご紹介をさせていただきたいんですけれども、秋葉区について、あとは秋葉区民幸福度調査というのをこの未来ビジョン策定に先立って行っているんですよね。ご存じの方ももう大分、自治協でやったんですけれども、当時委員だった方は覚えていらっしゃるかと思いますが、そちらの結果とかなり今回のまちづくりビジョン策定の結果というのがリンクしてくるということが発見としてありましたので、簡単にもご紹介させていただきたいと思います。あとは、まちづくりビジョン策定そのものがどういうものであったのか、それに対してフォローアップ調査を今年やらせていただいて、その結果についてのご報告ということになります。最後に、結論と展望をお示したいと思います。

秋葉区はどういうところかというのは、改めて皆様にお話しするまでもないかと思えます。2005年に小須戸町と新津市が合併してできたものになります。高齢化率26%です。非常に便利でありながら自然豊かなところということで、暮らしやすい、住みたいというところが一つの秋葉区の特徴としてあるのかなというふうにも思っております。お花いっぱいのところでもありますし、地域資源が豊富にあるところでございます。

そこでこの自治協議会というものがあるわけなんですけども、11のコミ協の代表、その他様々な団体からの代表、有識者、公募委員等から成る、約30人から成る協議会、協議体ということになります。活動の理念としては、議論と行動、あと区民主動サポート宣言というのを掲げて活動しているという。本当に私も短い期間ながらこの自治協議会に携わらせていただいて、それが何かその後の一つの誇りにもなっています。新潟市全市を眺めましても、これほど活発に充実した活動をしている自治協議会はないだろうというふうに自負をしております、その後私がちょっと自治協を離れてからどうなっているかよく分からないんですけども、でも本当に今日の会議の様子も、今日はあんまり議題なかったようなんですけれども、拝見していて、相変わらず活発に活動されている様子が伝わってきて、本当にとてもうれしかったです。それと、中島会長のギャグから始まるというのが恒例になっているんでしょうか。いいなと、雰囲気いいなというふうに思っただけで拝見しておりました。

それで、じゃまづはちょっと区民幸福度調査というものの概要なんですけれども、まづ秋葉区ってとってもいいところなんだけど、そこに暮らす幸せってどういうものなんだろうかということをもとに秋葉区民が考えるということが大事なんじゃないかなというところが一つの狙いとしてありまして、それを、秋葉区のよさを再評価するということですね。それと同時に、課題は何なのかということも明らかにして、今後のまちづくりに生かしていくという、この2つを目的にして自治協議会がやったものになります。実施したのは、2021年の夏から秋にかけてです。15歳以上の無作為抽出された2,000人に対してアンケート用紙を送付させていただきまして、そのうち1,035件が回収された。回答率50%を超えているという、極めて回答率の高いアンケートだったんじゃないかなと思います。一応このときも私がもう本当に言い出しっぺで、ボランティアで集計、分析をさせていただいたんですけれども、一部質問項目を整理したりするのにまちづくり学校というNPOさんの協力をいただいたというような、そんな経緯でございます。

2019年から一度は構想としてあったんですが、コロナが始まって、ちょっと何か様子見たほうがいいかなみたいなところで実施が2021年にずれ込みまして、8月から10月にかけてアンケート調査を行って、集計、分析があつて、ちょうどその年は秋葉区の区ビジョンを策定したりとか、特色ある区づくり事業というの、これは毎年だと思うんですけども、そちらの予算編成といったところに生かすというタイミングに間に合わせることができました。さらに、調査報告書というものをもちろん作りまして、それを基に新潟市に対する提言書というものも提出をさせていただいたところです。

一応部会をつくりまして、この調査は進めていきました。まず、部会のメンバーが幸せ

って何なんだろうかということと一緒に考えるというところから始めまして、幸せってすごく捉えようのないような、どうやって定義したらいいんだみたいなところがありますので、そこについてまずじっくりと考えて、そこから質問項目を出していくというような順番で考えていきました。これは、ワークショップのときにメモになります。結局、かなり欲張った結果になってしまいまして、全部で52項目の質問になりました。住みよさとか、住み続けたいと思うかとかというところの基本的な幸せに直結するような質問項目から、健康と仕事、困ったときの備え、助け合い、人間関係とか、社会参画、子育て、文化的な暮らしとか、それぞれその脇に書いてある質問項目が数でございまして、合計すると52項目というかなりボリュームの大きなアンケートなんですけども、それでも5割以上の方が回答くださったということです。

全てこれ報告していると、また時間がとてもかかってしまいますので、簡単な主なところだけなんですけども、秋葉区が住みよいかという問いに関しては、7割近くが住みやすいということを言っているんですね。だから、結構高いほうなんじゃないかなというふうに思います。さらに、幸せかという問いに関しましては、83%が幸せだというふうに答えていらっしゃるということですね。幸福度の高いということが証明されて、幸せの要素として重要なこととしては、健康と家族のつながり、調和、所得などの家計と、この順番で多かったということです。秋葉区が住みやすい理由としては、災害が少ない、交通上の利便性がよい、買物、食事に便利、自然豊かである、犯罪が少ないと、こういったものが上位に並んでいます。

あと、仕事面に関してはちょっと課題が見つかるという結果になりまして、仕事と生活のバランスは取れていると思いますかというところがちょっと微妙な感じなんです。思う側にこうやって回答してくださったのが5割ちょっとというような状況ですね。6割弱ですか。5割ちょっとですね。5割ちょっとで、秋葉区は仕事が見つかりやすく就業しやすいと思うかというところが非常に、思う、まあ思うを合わせても12%しかなくて、仕事、働き口が足りないという印象があるんだなというところがここからはっきりと見えてきました。

秋葉区の魅力、これのワードクラウドという集計方法なんですけれども、たくさん出てきたキーワードほど大きな文字になって出てきています。やっぱり自然とか、様々なものが豊かというキーワードですね。あと、鉄道とか交通とか、そういったようなものが大きく出てきています。気になることとしては、いろんなことが少ないと。少ないだけじゃ何が少ないかよく分かんないんですけど、その周りの青い文字を見て組み合わせて考えると、交通の何か便が少ないとかなんでしょうかね。あと、道路の整備状況がというよ

うなところもあるのかもしれないし、商店街に歩いている人がみたいなのところも結びつけて想像することができるかなというふうには思います。ただ、これは非常に多岐にわたってしまっていて、何か突出して本当に気になることがたくさん出てきたという結果ではなかったです。

安心、安全に関して言うと、障がい者や高齢者にとって暮らしやすいと思うかというところは、これはあんまり高くなかったんで、少し課題かなというふうには見えてきました。安心して暮らせると思うかというところは、本当に8割ぐらいが思うという方向で答えていらっしゃいます。

コミュニティー、困った人への助け合いはできていると思うかというところが、これ3割ぐらいしかいないんですね。意外と少なかったんです。もうちょっと私は秋葉区高いかなというふうに思ったんですけども。ただしその一方で、大切なものや価値を共有できたり、共感できたりする人がいるかという、そういうコミュニティーの形成という意味ではかなり高いですね。8割ぐらいがいるという方向で答えていらっしゃいます。

もろもろまだまだたくさんもちろん調査結果はあるんですけども、その中から秋葉区の主な課題というものを抽出してみたところ、仕事が見つかりやすいと思う人が少ないというところ、住み続けたいと思う20代が本当に4割いないというところですか、助け合いとか高齢者、障がい者の暮らしやすさというのは、どちらも5割ぐらいが何とも分からないみたいなの、その辺のところにあんまり意識も行っていないという現状も少し見えてきたかなというふうに思います。子育て、教育に対する支援の満足度が低い、それから中学生の社会貢献意識は高いんだけど、何していいか分からないとか、その場が用意されていないといったような、それもまた1つ課題として見えてきました。道路や公共交通に関する不満、知的興味や知識、能力を伸ばす機会が整っている、施設は整っているんだけど、機会が少ないというような結果になっているんですね。その辺も一つの課題。あとは、住みよいと思う、住み続けたい、愛着がある、幸せであるという幸福度に関する重要な4指標に関しては、20代後半の満足度が低い。これは、ちょっと気になる課題ですよ。そういったところがアンケート結果からは浮かび上がってきたというところですよ。

アンケートをやって終わりということではやっぱりよくないと思いますので、区民主动のまちづくりに向けて始めたアンケートなんですけれども、現状と課題を整理して、様々なツールを使って、一応結果の公開というところには努めたつもりではあります。そこからさらにアンケート結果をどんな行動に生かすことができるかということを考えてときに、先ほど申しましたように区づくり事業への反映というのが一つあり、区ビジ

ョンの策定というところに生かしていくというところがあり、あと地区ビジョンの策定というのは、その後各コミ協単位で行われたものということになります。そこにも生かsetらいいなというところが想定として実はありまして、これからその地区ビジョン、地区ごとの未来ビジョン策定の話をしていただきたいと思います。

こういう幸福度調査の結果を基に、市長さん、そして区長には7つの提言をさせていただいたんです。あと、仕事興しをまずしてほしいというのが1つ目です。支え合い実感できる仕組みというものがちょっと足りないというところをお願いをしました。子育て世代に選ばれる環境づくりが必要である。人に優しい生活インフラの整備、あとは文化、芸術に親しむソフト、機会のほうですね、そちらのほうの強化と、災害に備えた行動を促す、ちょっと防災意識が低いというのもアンケート結果から出てきましたので、これが入っています。幸福度というものをやっぱり行政の施策の目標のところに掲げてみてもいいんじゃないかなという、ちょっと欲張った提言もしているんですけども、でもやっぱりそのところが本来だと思いますので、最後に入れさせていただきました。

ということで、じゃそういう豊かな資源であつたりとか課題を抱えた秋葉区で、この地区ごとにまちづくりビジョンを策定するというのをやってみたら、果たしてどんなことが起きてくるか、何が解決されるかという、そういうところですよ。こちらのほうは、自治協議会が主催という形を取っています。個々の会場での開催に関しては、個々のコミュニティ協議会が主催という位置づけになります。パッチワークAKIHAさんから事務局業務を担っていただきまして、3人のコーディネーターが分担して11のコミ協を、ワークショップを回らせていただくという、そういう体制でやらせていただきました。私と山賀さん、池井さんという、本当にいずれもベテランのまちづくりのコーディネーターが担当させていただきました。各地区で3回のワークショッププラス発表会というのを想定してご相談をさせていただきまして、ここには職員さんとか、あと自治協の委員さんたちも当日のファシリテーターとして応援をいただき、ご尽力いただいたということになります。

地区ビジョン策定の流れとしては、まず1回目は、みんなでその地区の未来を考えましょう、どんなまちになっていたらいいなというのを予測しましょうということから始めて、未来図を共有する、そこからの現状把握という、その順番です。これ、今本当にいろんな計画策定で主流になっているバックキャスティングというものの考え方になります。そこから具体的な行動計画、アクションプランをつくっていくという、この3本立てでやらせていただきまして、その前には1回コーディネーターを交えた事前の打合せを入念にさせていただき、各地区にあとはお任せなんですけれども、できたアクション

プランを発表するというのと、あと全体の発表会は共通で開かせていただきました。文化会館でやらせていただいたものがございます。こんな構成で進めさせていただきました。皆さんもご記憶に新しいのではないのでしょうか。こんなわいわい、がやがやと、本当にワークショップとしてはとても楽しく、いろんな方が老若男女参加されて、和気あいあいといった感じで、様々な意見が出され、皆様からもやってよかったという声をたくさんいただいたところでございます。

そして、はっきりと、やってよかったはよかったんだと思うんですけども、それが本当にしっかりと目に見える形で評価をされていないというと、やっぱりこの成果を横展開していくとか、ほかに紹介するといったときにまだ弱いと思ひまして、それで今回の今年やらせていただいたフォローアップ調査というものがあるんです。効果を検証すると同時に、課題を明らかにするということです。あとは、幸福度調査で出てきた課題と、今回の未来ビジョンの策定されたアクションプランとの間に何か関係性はあるのかどうなのかというところ、そこもちょっと見たくてやらせていただきました。第1段階として、コミュニティ協議会の皆様にまずアンケートを送らせていただきました。基本的な参加者数とか、満足度とか、そういった辺りのアンケートをさせていただきました。それを基に私が一戸一戸訪ねて回らせていただきまして、ヒアリング調査をさせていただきました。その結果でございます。

延べ参加者数は、本当に900人ぐらいが全体で参加をしています。これって、なかなかすごい人数になりましたですね。1,000人弱が、延べではありますけれども、ワークショップに参加したことになります。子供たちも結構たくさん参加していたんですね、改めて集計してみますと。中学生が一番多くて、105人ということになっています。大学生、高校生、小学生なんかの参加もありました。

秋葉区役所のこの未来ビジョン策定に対する対応と、あと自治協議会の対応について各コミ協さんの満足度をお伺いして、実はこの辺があまり高くなかったんですけども、理由としてはやっぱり、一応補助金というか、今年アクションプランの実現に役立ててほしいという補助金があったと思うんですけども、補助金というか、あれ何と言ったらいいんでしょうか。きらサポの枠組み使ってというやつです。あの辺の出し方がなかなか最初からはっきりと決まっていなくて、ちょっとあやふやな説明になっていたりとか、なぜそれを通す必要があるのかというところの共有ができていなかったというところが一番大きな要因だったようですね。あと、自治協の内部のこの未来ビジョン策定に対する議論というのがちょっと足りなかったんじゃないかというような、そんなニュアンスの意見も複数頂戴をしていたところです。あとは、パッチワークAKIHAさん、事

務局及びワークショップを進行したコーディネーターの講師の進行法に関しては、おおむね高い満足度をいただきました。

これは、もう本当に全て100%満足という感じですね。参加者の主体性とワークショップ成果に対する満足度ということで、まあ満足、もしくは満足という回答しかございませんでした。様々な世代が集まって意見交換ができてよかったであったりとか、短い時間で参加者を集めるのは大変だったけれども、やってよかったという、集めてよかったというような、そういうご意見でございます。あとは、中長期的なビジョンが策定できたことが成果であるといったようなお声であったり、アクションプランの内容に現実離れしているものも若干含まれているので、その扱いに少し戸惑っているというようなご意見も一部ではありました。

その他、とてもこれも重要な調査の結果だと思うのですが、この未来ビジョンをやってみた結果、新しい担い手の確保につながったということを全てのコミ協さんがおっしゃっていらっしゃいました。これも本当にすごい成果なんじゃないかなというふうには思います。どういう形で加わったかということ、子供がもう本当に実働部隊として関わってくれるようになったとか、若手人材獲得できたとか、役員が新しい役員に替わっていったとか、あとは外部組織との連携した事業が実現しそうだとか、そういったようなところが見てとれました。

あと、その後も継続的な話合いができているというふうに全てのコミ協さんが回答されておられました。その形としては、何か発表会みたいなものをどんと開いている地区もありましたし、あとその後フォローアップでワークショップを自分たちで開いたといったような地区もありました。あと、検討会を開いているよであったり、実行委員会つくったよ、プロジェクトチームができたよというような話だったりとか、この辺の効果もはっきりと見てとれるものがございました。これすばらしいですね。

未来ビジョンで生まれたアクションプランが、11地区合計71件のアクションプラン、プロジェクトが策定されました。これもすごい数じゃないでしょうか。1地区当たり平均6.5件のアクションプランを打ち出しているということになります。その中で、実現、これ予定、多分実現するという見込みも含めてなんですけれども、その実現事業数というのが11地区合計で42件で、それを単純に71で割ると、59%の実現率ということになります。組織、11地区で必ず全ての地区が何かしらの事業の実現に動いていますので、それで考えると100%ですね。全ての地区が新しい事業に、地区未来ビジョンの策定の結果、踏み出しているというような結果が出ております。

アクションプラン実現させる上での課題も、これもちょっとまとめてしまっているん

ですけれども、一番はやはり担い手の確保と育成というところで、9コミ協さんが挙げていらっしやいました。とか、予算の確保とか、補助制度の仕組みを見直してほしいという声であつたりとか、あとは組織体制や仕組みづくりを少しやっぱりバージョンアップしていかなきゃいけないなというような声も中にはあつたりとか、この辺は3つとか2つとかなんですけれども、圧倒的に多いのがこの担い手の確保と育成という、ここはやっぱり力を入れて、みんなで支援して、助け合ってやっていく必要があるんじゃないかなというところが見えてまいりました。

実際ワークショップやってみて、どんなところに課題があつたと思いますかということもお伺いしたところ、参加者募集が大変だった、大変だったけどやりがいがあつて、集めてよかったというような、そういうふうなことになるんですけれども、それが4地区でそういう声が聞こえてきまして、あと自主的、自立的な運営、なかなかやっぱり、各地区のワークショップの主催はコミ協さんということになるので、やったことがないことに挑戦をしたというところから、そんな声もあつたのかなというふうに思います。あと、準備時間の不足であつたり、開催日の設定が難しかったりですね。この辺のスケジュール調整は、なかなかやはり難しかったですよね、全体調整しなきゃいけなかったの。やり方について相談するところがあつたらよかったとか、企画段階から子供に参画してもらえばよかったとか、そういうのも各1コミ協さんずつ声が上がっておりました。

それで、結果としてはこれが最後になるんですけれども、幸福度調査で幾つか秋葉区の課題が見えてきまして、その見えてきた課題と策定された71のアクションプランがどんな関係にあるのかということをし少し分析してみたところ、全て秋葉区の幸福度調査の結果から出てきた課題に必ず関連のあるアクションプランが、71事業全て関連があるということが見てとることができました。その中でも一番事業数として多かったのが、就労機会を増やしたい、新しい何か仕事興しみたいなのに関わっているものと、あと文化的機会、何かイベントをやつたりとかというところですね、それぞれ17事業が上がってまして、実現率としては、就労機会の充実というところが53%ぐらいですかね。文化的機会の充実というところは3割ぐらい、これ本当にいろんなイベントがありますので、いつかやれたらいいねみたいなのも含めて伺ったので、まだ3割ぐらいにとどまっているんですけれども、この実現率の高さという点で注目すべきが若者の満足度の向上。もっと地域の中に若者が活躍する場であつたりとか、若者が集まれる場所があつたりとかという趣旨で策定されたアクションプランが100%実現されているという、これがすごいです。皆さん、いかにそのところの意識が高いかというところが見てとれました。とか、ほかに高いのが子供が活躍する機会をもっと充実させていくというところで、これ

は出てきた事業の数も14というふうに非常に高いんですけども、実現率も85.7%ですんで、物すごく高いということになります。やっぱり次の世代を地域で育もうというところがアクションプランの数の上でも、実現率の上でも非常に高いというのが特徴として浮かび上がってきたかなというふうに思います。

それでは、全体を見渡しまして、どのような効果があったのかということをもとめてみますと、住民による主体的な議論の場だったわけです、今回の未来ビジョン策定というのが。それが主催者の満足度が高く本当にフィードバックされているという、それがまず調査からの結果からは言えると思います。そして、新たな担い手の発掘につながったということも言えます。地区内の継続的な議論の場を創出する効果もありました。あとは、策定されたアクションプランの実現率が高いです。7割近くが実現に向けて動き出しているという、これはもうすごいことなんだと思います。あとは、地域の課題、幸福度調査から見えてきたような、そういう課題を色濃く反映したものに自然になっているというところが、またこれもすばらしい結果かなというふうに思います。

一方で、施策を実現する上で不足する担い手確保というところが大きな課題として見えてきましたので、そこのところの対策が今後ますます必要になってくる。準備段階から実現段階にわたったきめ細かなフォローアップが早い段階にもうスケジュールとして決まっていて、それが丁寧に情報共有されていくと、さらに満足度上がったんじゃないかというようなところも見えてきましたんで、そこのところも一つの課題として挙げさせていただきます。

本当に皆様のご尽力でこういったことをやらせていただいたわけなんですけれども、これが本当にモデルケースとしてすばらしいものなんじゃないかというふうに思っていますので、私これからも積極的に機会を見て発信をしていきたいというふうに思っていますし、まずは全市展開というところを長崎区長も推してくださっているようですし、一部の議員さんもそういった発言をしてくださっているというところにもつながってきていますので、そういうところもまた秋葉区からの発信をしていきたいというふうに思っているところです。

私からの報告は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

(中島会長)

金子先生、ありがとうございました。先生が冒頭でおっしゃられた、コミュニティ未来ビジョンは日本を救うという言葉、力強く受け止めました。暑い猛暑の中行かれたんですね。直接各地域、地元に行かれて、当事者の生の声聞き取って、それが今日のフォローアップ調査報告に反映されているということでございます。ありがとうございました。

いかがでしょうか、皆さん。皆様のほうでご意見とか、ご感想でも結構ですし、ございましたらお願いをしたいと思います。どうでしょうか。

じゃ、渡邊委員、お願いします。ちょっと今マイク来ますんで。

(渡邊委員)

これからのスマートウェルネスの社会を築いていく上で、とても貴重な資料だと思いました。ありがとうございました。

ちょっと疑問に思っているのが、資料の5ページの左下に新しい担い手が確保できたとなっているにもかかわらず、6ページの一番上に担い手の確保と育成が課題になっているということは、担い手というキーワードの何の担い手かが違うのではないかと思うんですけど、そこら辺もしご存じでしたら教えていただきたいです。

(金子前会長)

その担い手の確保が11コミ協全てできたというのは、できているか、できていないかというところで判定しただけでございまして、足りているかどうかというのはまた別の話だということです。もっと担い手がいないと、せっかく策定されたアクションプランが全て実現することができないという、そういうニュアンスだというふうに捉えていただければと思います。

(中島会長)

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

先生が今後の課題として掲げられた、アクションプランのためのまさに担い手の確保、これは各コミ協で任せてというものではない、言うまでもなく。我々秋葉区自治協議会がまさに取り組んでいかなければいけない宿題として受け止めました。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、コミュニティ未来ビジョンのフォローアップ調査について報告を終わりにいたします。

それでは引き続きまして、第1部会の加納部会長から、第1部会における未来ビジョンの取組状況について教えていただけますでしょうか。

(加納委員)

皆さん、先ほども発言させてもらいましたが、第1部会長の加納です。

今ほどの金子先生のフォローアップについては、未来ビジョンと非常にリンクしているなというふうに感じ取れました。ありがとうございました。そこで、今こちらのほうで進行しております未来ビジョンにつきまして、少し進捗状況をお話しさせていただければと思っております。まず、言い出しっぺの私から荻川の状況について説明させていた

だきますので、急な依頼ではありますが、1号委員の方、一言ずつなりと発言していただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

私、荻川コミ協の未来ビジョンに携わっておりまして、昨年のビジョンの立ち上げから、その後で検討会議というのを月1回、コミ協役員、あと有志ボランティアというふうな形で設けております。その中で今一番お伝えしたいのは、もちろんカフェも3回やりました。あと、わくわく広場ということで、小中学生を対象にしまして、私ども荻川は結小学校と荻川小学校がありまして、みんないずれは二中に行くんですけど、その中のPTA、元は1つの結小学校だったものですから、もう分離して10年以上になりますけども、やはり地域というふうな形の考え方では1つなんですよね。そういう中から、PTAのほうも非常に仲がよろしくて、一緒に何かやりたい、そっちのほう何やっている、こっちのほう何やっているというふうなことから、最近はこの未来ビジョンの取組にも両校一生懸命やってくれております。それは小学校なんですけど、中学校におきましては、先ほどの検討会議の中で生徒会の役員であった子供たちが来てくださったり、先生も来てくださったりしまして、コミセンはなかなか行きづらいんだよなって、えっ、どうしてと言いましたら、学習室スペースはあるんだけど、あそこ寒いし、騒々しくて、なかなか落ち着いて勉強ができないというふうなことを言われましたので、それは大変だということで、2階の研修室を急遽、空いている日にち、土日中心になりますけども、使えるようにしまして、学校のほうに連絡しましたところ、安心メールで流していただいて、11月は16日から始まった仕組みだったんですけども、延べ27名、12月に入ってから22日の先日の日曜日までで37名の勉強したいというふうな子供たち、中学生、高校生来ていただいて大いに利用してくださっているのは、非常に喜ばしく思っております。この動きにつきましては、これからも続けていくというふうな形になっておりますので、いろいろ役員間の行き違い等もありましたけども、いいことはやっていこうというふうな形の取組をさせていただいているかなというふうに思っております。以上が今現在荻川でやっている、できることからやっていこうという未来ビジョンの取組になっております。

以上です。

続いて、じゃ右のほうの中央コミ協の小山さん、発表をお願いできればと思います。

(小山委員)

中央コミ協、小山です。

未来ビジョン住民座談会から実行委員会を終えまして、今年の7月25日に区長はじめ60人の参加の下、中高生の居場所がオープンしました。テープカットを新津高校生2人と一中の生徒さん3人で実施しまして、うちの中央コミ協の隣なんですけど、旧西部コ

ミ協の部屋をセカンドハウスと命名を当時いたしました。セカンドハウスという名前は、一中生徒会の主導で一中生徒によるアンケートにより決定したものです。それがセカンドハウスになりました。現在どうなっているかといえば、交流センターが1階のセカンドハウスが長机が6本、椅子が12、それで事務机が3個壁に向かってあります。そこに3人座れますんで、セカンドハウスは15名、満タンになると入る予定でございます。既存の勉強スペースが長机が6本の椅子が12、一般席が丸テーブル4台の16脚ありますので、そこでも28人が座れると、そんなような状況です。もう一つ変わったのは、2階の手すりの周りに、第一中学校の校長先生が持ってきてくれたんですけど、学校の机が8台設置してあります。非常に皆さんも見ると懐かしい感じがすると思います。私もあの椅子に座って折り紙折っていたんです。何かちょっと小さいなと思ったんだけど、何となく懐かしさを感じました。

今利用者が毎日いて、大変盛況です。今日も朝早くからセカンドハウスは女性が2人勉強していました。いいですね、これ。あと、2階の入りなんかも当初心配したんですけど、あんまり心配することないですね。かなり入っております。私ども午前中しかいないんですけど、午後から、時々4時から5時ぐらいに来ると、相当入っています。特に受験勉強というか、試験の前にちょっとのぞいてみたら、2階に7人ぐらいいて、セカンドハウスも8人ぐらいいて、あの一般席でも10人ぐらいいるんで、二十七、八から30人ぐらいいたときがありました。非常に私は感動いたしました。それで、中高生の話を聞いていると、触れ合いの場にしている。2階もあって静かでいい。テスト前やテスト中、気軽に来れる。午前中は受験勉強がはかどる。こういったようなご意見いただいております。交流センターに中高生はこの憩いの場が、勉強の場があるということがかなり広がっているかと思います。インスタ、フェイスブックで継続して発信していきたいと思っております。

以上です。

(小菅委員)

こんにちは。西部コミ協の小菅といいます。よろしくお願いします。

実は西部地区のほうは、今年度いろいろ反対にコミ協、市のコミ協とか新潟市全体のコミ協の関係で、全然未来ビジョンについては集まって何か議論されていないというのが現状の状況です。ただ、役員が集まったときに、当然昨年度いろいろ四、五回ワークショップなり、皆さん集まっていたきやった中で、最終的には第三小学校の裏、国道460号線、国道403の間の大きい田んぼの中で、覚路津排水路も含めたそこででかい公園を造りたいというのが役員、子供の中で、広い公園が秋葉区の中では平らな部分ではないよ

ねという中で、親水公園であったり、防災公園であったり、いろいろそういうものを造って、今後子供たち、大人、各そういう世代の人たちがいろいろ遊べたり、いろんなことがやれたらいいなというまんま、そういう状況の中で今は止まっている状況というのが現実です。

小さい中では、これから第三小学校のグラウンドを使って、冬の火祭り、要はさいの神、これは毎年やっていて、コミ協の役員が小学校へ行って、このさいの神といういわれについて、いろいろ地元の町内会含めて勉強会をしながら、子供たちが将来にわたってこういういわれという、いろんな神事のものとつながっていくものがあるんで、これら子供たちに教えながら、子供たちが大人になったときにいろんなところ出かけていったとしても、地域としてはこういうものがあるんだよってふるさとを思い出していただけるような、まずはそういう取組の小さいところからやっていき、あとは大きい夢に向かってこれから広げていきたいというのが今の西部の現状ではあるんですが、今の中ではまだ具体的になっていないというのが現実です。

以上でございます。

(加納委員)

小菅さん、ありがとうございました。

じゃ続きまして、新関さんお願いできますか。

(菅井委員)

満日コミ協の菅井と申します。直前、今日初めてこの席座ったらこんな話をしてくださいということで、何も用意をしてきませんでした。

満日は、阿賀浦コミ協さんが主体でやりました阿賀満にじいろまつりに加わせていただきました。この詳細については、阿賀浦コミ協さんのほうからの発表をしていただきたいというふうに思います。

満日独自では、小学生から出た意見で、SNSでフォロワー1億人を目指そうという広大な夢なんですけど、残念ながら満日は非常に弱小のコミ協でありまして、もう環境が何一つ整っていませんので、取りあえずデジタル的な基礎をつくろうということで、今いろいろと模索しているところです。満日コミ協は、旧満日小学校というところの一室を区のほうからお借りして、事務等を取り扱っているわけでありまして、ここはなかなか難物で、いろいろ例えば光回線を引くにしてもどうしようかみたいところから始まってまして、でも何となく今めどが立つところまで来ました。取りあえずということで、デジタルの基礎を構築して、そこを第一歩として次につなげていこうというところがあります。

以上です。

(加納委員)

ありがとうございました。

じゃ引き続きまして、佐藤さん、お願いできますか。

(佐藤委員)

東部コミ協の佐藤です。

東部地区は、旧能代川、新津川ですね、その沿岸に位置する地域でありまして、とにかく何をやるかといいますと、まず地区を知ろうと、そしてその魅力を得て愛着を持ってもらえるようにしたいということで、新津川遊歩道をメイン、核にして取り上げて、この前、11月17日日曜日ですけれども、一般応募者が30名ほど参加してくれまして、午前中は日宝町にあります新津図書館で、これまでの、昨年度ですね、どういうふうな取組をしてきたかということを、初めて参加された方もいらっしゃいますので、説明をして、今度遊歩道を歩きますけれども、何のためなのかということ、とにかくよいところ、新津川遊歩道を歩いてみて、ああ、ここはいいね、いいスポットだねとか、そういうところを見つけてください、と同時に、この辺はちょっとこういうふうになったほうがいいのかと、そういったものも気がいたらその地図に書いといてくださいというようなことで説明をした後に、30人ほどでしたので、6グループ、親子連れもいましたし、小学生、中学生、高校生も1人、昨年中学3年生だった、高校生になっていましたので、参加しました。場所は、ずっと広いんですけれども、メインには新町の大橋から山先橋、そこまでの間の遊歩道を歩きました。午後は、それぞれのグループでメモしてきたこと、写真を撮ったようなものを材料にして、5つのグループでワークショップをして、簡単なマップとありますか、そういったものを作成して、その日は終わりということになりました。今後これを継続するのであれば、その遊歩道、まだずっと柄目木、先のほうもありますし、また北上のほうもありますので、その辺まで発展させていけたらいいかと、そして見どころとありますか、そういったものが分かるようなマップ作りにつなげていければいいんじゃないかなというふうに考えております。

以上です。

(加納委員)

次お願いします。

(坂口委員)

阿賀浦コミュニティ協議会の坂口です。よろしくお願いいたします。突然でしたので、あまりうまくしゃべれませんが、簡単に。

先ほどもありましたように、阿賀浦地区は阿賀浦コミュニティ協議会が発端で皆さんからの意見を聞いたときに3つ挙げたんです。1つ小学生からの意見がありまして、小学生の意見、それからほかに2つありました。1つは、小学生がお祭りみたいなので集まって、そういう機会がコロナで失われたんで、それをみんなで共有したいなという意見があったんで、それをやろうということになりました。阿賀小学校が地元なんですけれども、阿賀小学校は満日地区と阿賀浦地区と2つのコミ協が関係しているんです。それをやるためには、やはり学校が中心となって、我々はサポートしないといけないというところがありました。そこで、タイトルを考えるとどうしようかということをお子供たちからつくってもらったんです。それに色を加えて、阿賀満にじいろまつりというタイトルが出来上がりました。

実際にこれを展開するに当たりまして、我々がやるに当たってもそれを実施するところがなければ駄目だねということで、実行委員会をつくっていこうということになったんです。その場合に、継続してやるための工夫をしないといけないというところで、実は学校のCSを絡めて、今後も継続できる仕組みをつくれないうという相談をしました。そして、実行委員会は本当はCS主体でやっていただきたいかったんですけれども、CSのほうからやはりそういう実行委員会を別途つくって展開してほしいというところがあったので、満日地区と阿賀浦地区の方からそこに参加していただいて、それを展開することになったんです。実行委員会が展開するに当たりまして、じゃ目的とか目標とか、そういうことがないとうまくいかないねということで、それをまずつくってもらいました。その下に、じゃどういうふうにするんだというところで、具体的に展開をしたというところになります。

阿賀満にじいろまつりは年1回の開催なんです。本来であれば、通常の日常の中でいろんなことができればいいんだけど、それ年1回なんですけれども、その間の準備でいろんな人たちがそれに関係していろんなことをやってきたんです。10月26日にお祭りを実施いたしました。そこでは、各地区の団体の発表会とか、PTAの意見を取り入れてキッチンカーを導入したり、いろんなことをやって、区のほうからも区長のほうからおいでいただいて挨拶いただいたり、いろんなことをやりながらその日を迎えることができたのが非常によかったんです。我々、各地域ごとに1つのところを目標にしながら、地域ごとに展開しているんですが、地域が1つの目標をつくってそれを展開しているというのは今回が初めてなんです。だから、そういう意味では本当によかったなと思っています。これが継続するに当たっては、予算もそうです。組織もそうです。そういうところを今後どうしていくかということも課題になるのかなと思っています。

簡単ではありますが、よろしくお願いします。

(吉田委員)

新関コミ協の吉田でございます。

私のところは、昨年未来ビジョンの発表会が終わってから、特に多かったのが若い30代、40代ぐらいの保護者の方々が非常に興味持っていて、いい機会なので、何とか継続してこういう機会を持ってもらいたいというような意見が結構寄せられました。特別にその実行委員会的なものではないんですが、昨年だと3回から4回ですか、5月の小学校の運動会と、あと10月の新関まつり、それと12月にミニバスの、私どものコミ協で主催しているミニバス大会やったりしたんですが、そういうときに保護者の方に声をかけて、今までやっていなかったんだけど、特に新関まつりなんかは、我々役員がみんな高齢化したもんですから、力仕事に結構応援していただきました。おかげさまで3回のうち2回は、小学校と合同でやっているんですけど、9割ぐらいの先生が懇親会に出っていて、私どもも当然出ますし、保護者の方も出て、結構盛り上がりをしています。特別にその実行委員会的なものはないんですが、必ずそういう機会のときにコミ協が各未来ビジョンのメンバーに声かけをして、全員ではないんですけど、出れる人でいいので出てくれというような形で、飲み会だけでもいいから来てくれというような形で昨年はやりました。それで、今年はもうちょっと具体的に計画を組んでイベントなり、いわゆる実行委員会的なものをやっていけたらなと思って、4月にまた代議員会あるんで、そこで我々事業年度の、7年度の計画はつくるので、そこに予算化を含めてちょっと整理していきたいなと思っております。

そんな流れの中で、私ども6つぐらいたしか実際の実行計画はアイデアがあったんですけども、その中で特に話題になったのが、まず情報発信と我々地域内の情報共有化、その2つのキーワードが全てのアクションプランにつながってくるということで、まず今回、地域の中にいろんな情報を共有できるだけの本ですとか、資料ですとか、そういうのを集めよう。というのは、学校の子供たちは年3回ぐらい各地域回って、我々夢マップと呼んで、地域の名称だったり、昔からのことだったりの総合学習の中でやっているんですけども、親の世代はなかなかそういうのが分からんということで、子供のほうがよく知っているということもありましたので、せっかくだから、じゃそういったものを情報全部集めようということで、あと特に高齢者の方がいい資料をいっぱい持っているんだけど、だんだんみんな人がいなくなって、ただのもう古いごみみたいな、極端に言うとかみみみたいな形でなくなる危険性もかなり増えてきたということで、価値が分かる我々が残っている間にいろんなものを声かけをして、今年から具体的にそういう資料集

めをしようと。

については、私ども未来ビジョンの発表会のときにも資料館的なものを造りたいなというのは、一番大きな夢があったんですが、なかなかそこまではいかないの、まずは情報収集したその資料を展示、保管して、みんなにオープンにできる、そういったところからスタートしようということで、今年最初の未来ビジョンの事業計画の中には、その保管する施設、設備、そういったものを取得していこうということで、今日認可いただいたということでさっき報告受けましたが、これからじゃそれを受けて具体的に、各地域のお年寄りの方含めて、本当の眠っているお宝、新関のことについての古いもの、特に新関は昭和30年に分村合併ということで、旧新関村が半分、新津半分五泉行ったもんですから、五泉のほうにもかなり古い旧新関の材料というか、資料もあるので、地区外ではありませんが、そういったところ、今の我々の世代は全部新関小中学校と一緒に来た子供たちだったんで、そういうのを通じて声がけをして、いろんな資料を集めて、どんだけ集まるかわからんけれども、取りあえず来年の10月ぐらいの新関まつりのときにはそれらをみんなに知らせられるぐらいにしようということで、会長といろいろ今中で協議しながらやっているというところです。

すみません。取り留めなく話ししましたが、私のほうから以上であります。

(今井委員)

それでは、小合コミ協のほうで、小合コミ協の今井でございます。

先ほど冒頭の挨拶にございました第3部会の古川委員の中にもう入っているんで、重複するんですけども、一応プロジェクトチームを立ち上げまして、7名のプロジェクトチームメンバーにより今進めております。説明さっきあったとおりなんですけども、カフェの開催だとか、それからコミ協の行事の中でコラボレーションしたお試しカフェ、それからこの間、クリスマスの集いというクリスマスパーティーもあったんですけども、その中でもちょっと協力していただいて進めています。コミ協の中では、ちょっと行事もいろいろあって忙しい中でも、これをやっぱり進めていかなきゃならないことなんで、プロジェクトチームと協力しながら進めていく形になっております。さっき言いましたけども、今日から冬休みですかね、始まっている学校もあると思うんですけども、冬休み期間中にコミュニティセンター内で学習室と遊びの部屋ということで開いて、そこで集まってもらおうというふうなことを今計画しております。コミ協としては、これ言い訳になるんですけども、小学校が、2つある学校が今統合の問題がかなりありまして、それがちょっと役員のほうは忙しいんですけども、未来ビジョンを大事にしなきゃいけないと思っていますんで、これから進めていきたいと思っています。

以上です。

(加納委員)

ありがとうございました。

じゃ、金津コミ協の青木さん、お願いします。

(青木委員)

金津コミ協の青木でございます。

この未来ビジョンにつきまして、私いささかおかしいのが幾つかあるかと思うんです。といいますのは、今日も突然ですよ。事前に一言あればいいのに、いきなり発表してくださいっておかしいじゃないですか。たまたま私、今までのメモがあったから、何とか言えるんですけども、こういう大事なことで事前に連絡してほしかったというのが一つでございます。

金津コミ協につきましては、昨年3回、若人中心に延べ99名の方から本当にすばらしいアクションプランをつくっていただきました。このプランが新潟県から評価されて、現在新潟県が3か年お金出しますよと、サポートチームも支援します、こういうすばらしい報告もいただきまして、現在やっております。それで、今現在、今年何やるかといいますと、今年は当面4つを目標にやっております。Instagramの開設、それから地域の魅力発信、それから大学生とのコラボ、それから空き家活用による移住事業の推進と、これにつきましてやっております。たしか今現在、金津コミ協も行事たくさんあるんですけども、昨年、中学生、高校生、大学生、若人からすばらしいアクションプランつくってもらいました。これをやらないということになると子供たちの夢を壊すと、そういうことなりかねないので、何が何でも、やれるのからやるんじゃなくて、やらねば駄目、子供のためにということで、それを今お金もかけて、人もかけて、最優先でやっております。

そんな関係で、今現在実施できたのが4つでございます。まず、1点目は公式のアカウント、これを5月に開設しました。その後、子供たちがバスの便が悪いんですと、何とかもう少しバスの便をつくってくれと、こういう要望に対しまして、いろいろな方面にアンケート取りまして、子供が最も利用しやすい時間帯、それと中学校の前にバス停をつくりました。そんな関係で、今まで1年間で子供が10人ぐらいしか乗らなかったんですけども、その事業を開始してから、本当に私も驚きました。一番多いとき100名、1か月100名です。この前は、夏休みだから、もう少し少ないかなと思ったんですけども、クラブの関係で68名の子供が利用しております。そんな関係で、子供たちもよかったと言ってくれましたし、また保護者も、ああ、いいなと、そんなふうに共感得ております。

それから、3つ目が空き家の活用の移住促進でございます。これもこの前、3回会議やったうちの1回が地域の方と一緒に、移住の関係で空き家を8軒皆さんに見てもらいました。その広報をしました結果、何と驚くことが、アメリカに住んでいるアメリカ人が住みたいと、こういう希望が来ました。それ即持ち主に連絡取ったんですけども、たまたまタッチの差でもうほかの方が約束しましたと、こういうことでできなかったんですけども、そんな関係で非常にその効果が出てきているな、素晴らしいなと思っております。

それから、4つ目でございますけども、これも移住の関係でございます。民泊のこの前説明会を行いました。その結果、金津はもちろん秋葉区以外の方からも問合せが来しました。今度またやってほしいと、こういう励まし、こういうのをいただいておりますので、そんな関係で、できるのからやるんじゃないくて、やらねば駄目なことから最優先でやりたいと、そんなふうに考えてこれからもやっていきたいと、そういうふうに思っております。

以上でございます。

(加納委員)

大変ありがとうございました。

(板井委員)

小須戸コミ協の板井です。よろしくお願いします。

小須戸コミ協では、とにかく子供を中心ということで、子どもプロジェクトということで、コスドコマルシェと子供の居場所づくりということでこの事業を進めてきています。コスドコマルシェについては、9月にまちセンマルシェということでマルシェを開いたときに、中学生の生徒から企画から運営といいますか、まで全てやってもらおうということで参加してもらって、大分好評をいただきました。小学校のほうでは、6年生の子供たちからそのマルシェのときに、風船釣りですかね、それのところにちょっとお手伝いをしてもらいました。これからもう少し今度小学生の子供たちにも、小学生では何がしたいかというか、自主性と、自分たちで企画して運営していくというのも小学生の子供たちからしてもらおうと思っています。

居場所づくりに関しましては、なかなか小須戸、まちづくりセンターが今あるんですけども、もう少し何か中学生がもっと使えるような場所があればいいんですけども、まだそちらのほうは、なかなか場所ということに関してはないので、今ちょうど中学生から居場所づくりについてのアンケートを取りまして、取りまとめたところです。これからやっていきたいなと思っています。

以上です。

(加納委員)

あと、1号委員の方でもっと発表したいという方はいらっしゃいませんか。

急なお願いにもかかわらず、すごく分かりやすいご説明いただきましてありがとうございます。

あともう一つ、来年度につきましては、この自治協委員の中、1号委員の中から全員に特別部会というふうな形で未来ビジョンに関わっていただきたいというふうなことを想定しております。もちろん会長、副会長も含めてのことになっていきますが、まだ今想定段階となっておりますので、また詳しい説明は後日させていただくようになっていくかと思っておりますので、その辺はご協力のほうをお願いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

本日は本当に急なお願いで、青木さん、ありがとうございます。

以上、未来ビジョンの進捗のご報告を終わらせていただきたいと思います。

(中島会長)

加納さん、ありがとうございます。

アクションプラン、プロジェクト、既に動いております。1号委員さんからの報告を聞いていて、やはり子供、若者の次世代育成、そして異世代共有ですね。交流ではなくて、もう共有ですね。情報の大切さというのが強調されていたように思います。現状維持バイアスを解消して、そして持続可能なものにしていくためのキーポイントがそこにあるんじゃないかということを私再認識いたしましたし、まさにこれって10期に向けての課題、宿題になるんじゃないかなと受け止めた次第でございます。よろしいでしょうか。

ということで、これで未来ビジョンについての報告を終わりにします。

あと、委員の皆様、事務局で何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

特になければ、私から2点ご案内がございます。まずは、忘年会についてでございます。改めてご連絡いたします。12月の26日、あさってですね、木曜日午後6時半、イタリアンキッチン VAN SAN 新津店で行います。今回、会場までのマイクロバスの用意はありませんので、直接会場に向かってください。お願いいたします。それが1点目です。

あと、2点目です。委員研修のご案内でございます。次第にも書いておきましたけれども、来月、1月28日、本会議前の午後零時半からです。午後零時半から委員研修会を開催いたします。講師は、西地区の自治協議会の委員でもある、まちづくり学校の 山賀昌子 さんでございます。もう秋葉区でもおなじみでございます。10期に向けて、西区自治協の取組についてお話をいただいて、ヒント、指針を得られればと思っております。万障お繰り

合わせの上、ご出席くださいますようお願いをいたします。

では、区長からご挨拶がございます。よろしくお願いします。

(区長)

皆さん、令和6年度大変お疲れさまでした。今ほど未来ビジョンのお話伺いましたけれども、ちょっと後段でその話をさせていただきますが、まずは今年1月1日の能登半島地震から始まった1年ではありますけれども、特に前半は地震対応が主として、なかなか日常的なことに向かえませんでしたけれども、ゴールデンウィーク過ぎからでしょうか、各コミ協の総会をはじめ、少しずつ日常が戻りつつある中で、皆様方から未来ビジョンをはじめ取り組んでいただきました。私、年度が始まるに当たって、災害に強く、こどもまんなかの秋葉区づくりということで掲げさせていただきましたけれども、本当に皆様方からは、災害に強くでいいますとクリーン作戦ですとか、あるいは一斉防災訓練、多くの方々からご参加いただきましたし、こどもまんなかにつきましては、今ほど1号委員の皆様からお話がありましたように、未来ビジョンの中で特に子供に関連する取組を熱心にしていただいたなというふうに感謝を申し上げる次第であります。先週からコミ協さんに年末の挨拶回りでお邪魔しているんですけども、その中でも今年、そして来年に向けて、未来ビジョンの特に子供中心の取組が進んでいることを確認をさせていただきました。コミ協だよりの中でも率先してその記事を確認をさせていただいておりますし、今ほどの報告にあったとおり、むしろこれからかなというふうに思っております。

今ほどの発言、説明の中で、少し区役所として説明しておかなければいけないことをちょっとお話をさせていただくと、まず予算を含めて自治協議会の中に入れさせていただいているのは、これを区づくりあるいは本庁への提案予算にしまうと、毎年毎年査定をされます。そうすると、ここのコミ協の事業大丈夫ですかということをストレートに、言ってみれば削られる可能性があるということで、きらサポと一緒にですけども、自治協議会の中の事業とさせていただいているのはそういう理由です。

そして、もう一つ、こどもまんなかをさせていただいているのは、これはほかの会合でも私お話ししていますけれども、子供を真ん中にすることによって、その保護者世代、親世代が参加することができる。そして、CSもそうですけれども、コミ協ないしは自治会の次の担い手である現役世代にとにかく地域の取組の中に入ってほしいということで、子供をキーワードにしているというのが一つです。

もう一つあります。20年前の中越地震のときに地域復興で携わっていて、最初に集落を離れるのは子育て世代からです。子供が集落からいなくなると、集落は一気に廃村に

向かいます。なぜなら、何のためにこの村を残すんだという話になってしまうからです。今回の能登半島地震の記事が今随分検証されて出ておりますけれども、結果として子供たちがいなくなったところから進む、進捗は速くなっているなというのは、20年たっても変わっていないなというふうに思っております。ですので、年配の方々から何で子供なんだと私言われますけれども、まずはそこから始めさせてくださいと申し上げております。そのことによって、会長もおっしゃられた異世代、多様な世代が関わることができきますので、祭りを復活したところもありますけれども、そういう意図もあって、来年以降も続けさせていただきたいと思っております。

それと、冒頭古川さんがおっしゃっていた、私は区役所、行政の壁だなというふうに、私も区役所の人間ですけども、思いました。まだまだ認識、理解が進んでいない職員がいるのは、私の指導が足りないのかなと思っておりますので、ぜひそういうときはイマイ事務局長と一緒に話を聞かせてもらおうと早いかなというふうに思っております。できればコミ協さんと一緒に動いているということが見えると、私もいろいろ指導がしやすくなるかと思っております。何よりも、中越地震の話もそうなんですけれども、いわゆる住民自治、地域自治、地域経営というところは、地域の皆さんが主役になっていただかなければいけません。役所の人間はどうしても3年、4年で異動してしまいますから、継続性が保てない。保つために自治協議会の中に入れさせていただいたという落としどころということで、ご承知いただければと思っております。むしろこれからが本番だと思っておりますので、ぜひ、それだけではありませんけれども、自治協の皆様方から活躍いただきたいと思っております。

もう一点最後に、先月の自治協だったと思いますけれども、中島会長からのA k i h a 教育懇談会で子供たちと参加して話をしたいということでしたので、秋葉区内の6つの校長先生にお話をしました、来年ぜひ参加してほしいと。ただ、やっぱり学校のカリキュラムの中に入れる理由がありますので、一応教育的位置づけということをこちらも考えまして、各中学校の生徒会の皆さんから私たちの地域の自慢という発表をしていただきます。プラス、地域の未来に望むことという題をつけさせていただいて、各生徒会ないしは中学校さんのほうで代表を2名から4名ぐらいですかね、出ていただきまして、地域ごと、学校区ごとにテーブルをつくって、その後意見交換、未来に向けた、あるいは地域の課題を話し合ってください場を今設けております。それぞれ中学校の事情があるので、それ以上は踏み込めませんが、来年の8月7日木曜日の午後、文化会館予約しておりますので、ぜひそちらも、半年以上先の話ですけども、そういう段取りをこちら皆様のために設けておりますので、ぜひ区民主動のまちづくりが進みますように、来

年もまたよろしく願いをしたいと思います。

ぜひまた来年がよい年でありますようにご健勝をご祈念申し上げて、挨拶とさせていただきます。今年1年大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

(中島会長)

ありがとうございます。

これをもちまして全て議事は終了となります。

それでは、事務局にお渡しします。